



KENOH IBARAKI

LIFE DESIGN BOOK

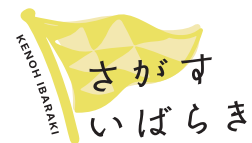
いばらき県央地域 ライフデザインブック



いばらき県央地域
ライフデザインブック

発行 いばらき県央地域移住・定住促進協議会
企画・編集・デザイン 株式会社カゼミ
印刷 株式会社あけぼの印刷社

2025.3



「さがすいばらき」とは、いばらき県央地域に在住、またはいばらき県央地域から転出した大学生が、いばらき県央地域での働き方や暮らしの魅力に触れるとともに、自分のしたいことを言語化していくプログラムです。「現地に行く・取材をする」というテーマで参加者が実際にいばらき県央地域で活動するローカルプレイヤーのところに足を運び、活動内容や活動への想いなどを中心に、プレイヤーのライフデザインについて取材してきた内容をこの冊子にまとめました。

いばらき県央地域 …… 水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村

いばらき県央地域 ライフデザインブック

目次

はじめに	P1
いばらき県央地域MAP	P3
いばらき県央地域 働き方・暮らしの魅力	P5
川島飛鳥／水戸市	P7
川島拓／笠間市	P9
Keicondo／笠間市	P11
河又恵太／笠間市	P13
臼田那智／ひたちなか市	P15
大内靖／那珂市	P17
立原陽子・佐々木泉／小美玉市	P19
通野崇／茨城町	P21
佐藤穂奈美／大洗町	P23
坂本裕二／城里町	P25
関川恵実／城里町	P27
切敷明彦・葛西美紀／東海村	P29
さがすいばらき参加大学生アンケート	P31
いばらき県央で楽しむ50の暮らし方	P35
編集後記	P41
さがすいばらきについて	P43



いばらき県央で 楽しく暮らす。 いまできること

この冊子は、いばらき県央地域に住む大学生、いばらき県央地域出身だけど域外にいる大学生たちが、これからのライフデザインを描くに当たり、「いばらき県央地域ではどんな生活をするのができるのか」という問いに対するヒントとなるように制作しました。

会社員、公務員、フリーランス…… 生活を支える仕事にはさまざまな形がありますが、あなたはどんな未来の選択を考えていますか？

また、仕事の他に、自分らしい暮らし方も大事。あなたはどんな暮らしをしたいですか？ いばらき県央地域にいるからこそできるあなたらしい生き方がきっとあるはずです。

この冊子で紹介している方々は、地域の案内人のような方ばかり。悩みすぎて困る前に、まずはこの冊子を読み、気になる人がいたら、SNSなどをフォローしてみましょう。

地域に相談できる大人がいる。参考となる生き方をしている大人がいる。それがあなたのライフデザインのヒントとなるように、この冊子があなたといばらき県央地域で暮らしている人をつなぐパスポートになれば嬉しいです。

#さがすいばらき

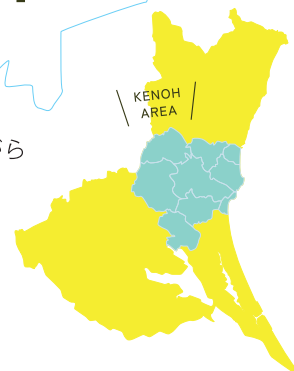
#いばらきどまんなかライフ



いばらき県中央 エリアって どんな場所？

3つの魅力が織りなす

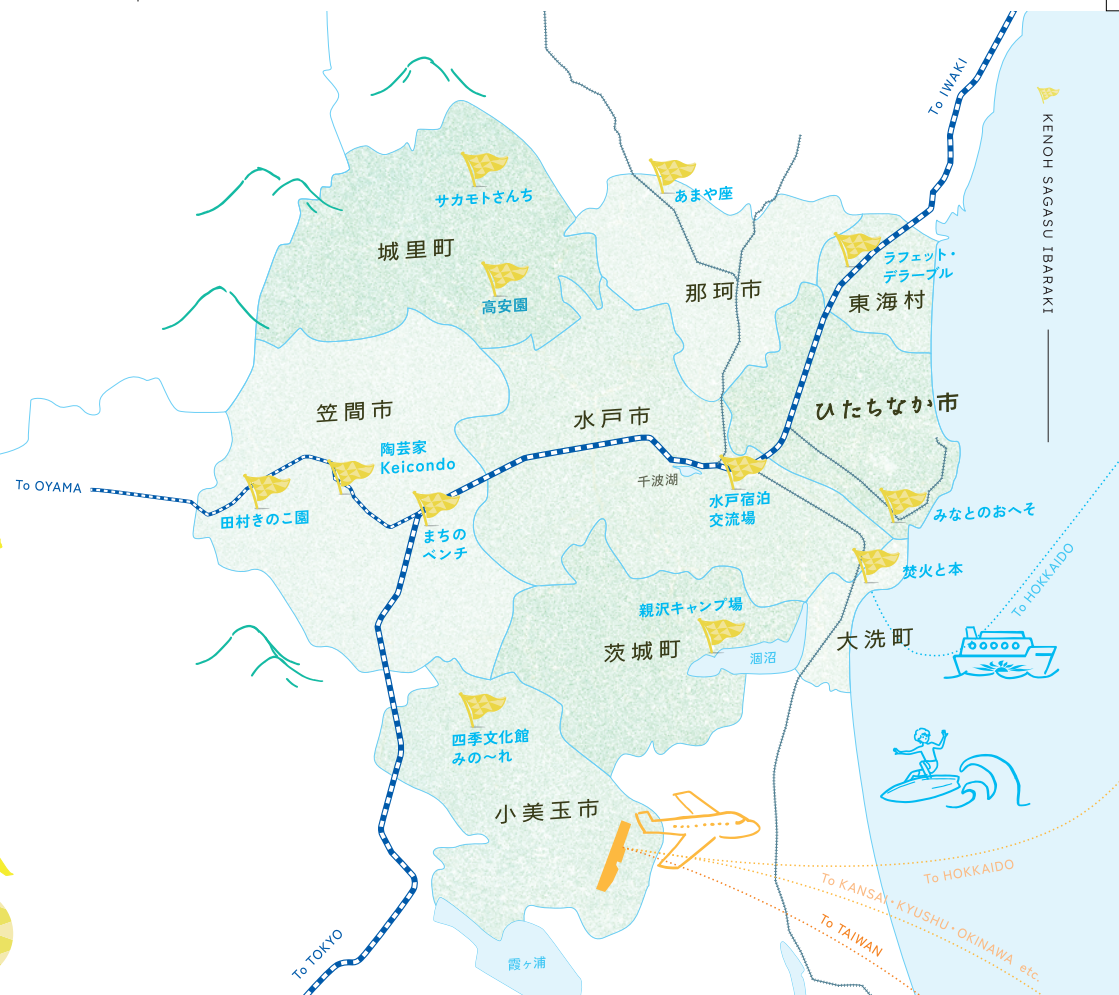
理想のライフスタイルを実現しながら
不自由のない生活ができる
シームレスな一体の生活圏



教育・医療機関等が集積する中核市

海から山まで豊かで多彩な自然

域外とのアクセスも整い、
買い物にも困らない利便性の高い暮らし



いばらき県央を 選ぶ。 その決断の ヒントを探る。

いばらき県央地域で活躍するローカルプレイヤーが
なぜいばらき県央地域を選び、
なんの仕事をし、どんな時間をすごしているのかと、
それを実際に取材した学生がどんなことを感じたかを
次のページからまとめています。
プレイヤー達も自分の生き方に悩んだ時期があり、
その上でいまの暮らしを見つけています。

私はどこから始めたらいいんだろう……。
そんな人は自分に近いタイプの
おすすめページから読んでみてください。

ここで生きたい

県央エリア **内** 在住の私 県央地域出身

地元は好き。
ここで変わらず暮らしていきたい。
でも、地元にながら面白いこともしたい。

おすすめ P17・P19・P29

何が決め手？

県央エリア **内** 在住の私 県央地域外出身

縁あっていばらき県央地域にきた。
地元に戻る、新しい場所に行くことも悩むけど、
この場所も好き。
みんながいばらき県央地域を選んだ
決め手を知りたい。

おすすめ P15・P21

地元就職も
考えたいけど…

県央エリア **外** 在住の私 県央地域出身

一人暮らしがしたくて実家を出たけど
地元に戻るか戻らないか悩ましい。
地元は嫌いじゃないけど都会の刺激も感じていたい。
地元にながら都会に関わる仕事ってできるのかな？

おすすめ P7・P11

楽しむ暮らしが
わたしの生き方

県央エリア **外** 在住の私 県央地域外出身

いばらき県央地域に縁はないけど、
楽しい地域に興味がある。
面白い地域がたくさんあるなかで
いばらき県央地域ではどんな楽しみが
待っているんだろう？

おすすめ P23・P25



Uターンして 地元と再接続しています



水戸宿泊交流場 運営メンバー
川島 飛鳥

地域にあるわくわくに
気づいたんです。

東京で過ごした学生時代は、正直地域に関わることはあまり興味がなかったんです。とあるダンスボーカルグループの大ファンだったので、就活もエンタメ業界を志望していました。しかし、ある時、たまたま地方のキャンプ場で運営のお手伝いをする機会があり、その時に地域にもエンタメと同じわくわくを感じた自分がいて、衝撃を受けました。それから、地元でも何か面白いことをしたいと思い、いばらき県央との関わり方を模索していた時に、偶然出会った建築家の中村彩乃さんとゲストハウス「水戸宿泊交流場」をオープンすることに。自分が行動したことで生まれた、人とのご縁が繋がって、いまの私がいるんです。

私は平日、都内の企業にフルリモートで勤務していますが、休日には様々なイベントに足を運び、地域の人との接点をつくるようにしています。フルリモート勤務となったことを機にUターンすると、これまで見えていなかった地元の面白さに気がつくようになり、地域との関係性を改めてつくるのがとても楽しいですね。その時間が私にエネルギーをくれるので、人と人とのつながりはこれからも大切にしたいです。



さらに、最近はイベントに参加するだけでなく、自分が主催者になったり、交流場のお客さんに近くの商店街を案内したり、地域の日常で人のつながりに触れる機会をつくる立場になることも多いです。私にとっては当たり前の景色でも、誰かにとっては非日常。交流場のお客さんが水戸と交わる瞬間に立ち会いたいと思っています。



水戸宿泊交流場

DATA 茨城県水戸市柳町2丁目7-18 電車:JR常磐線 水戸駅より徒歩約20分 車:駐車場はございません。 〇宿泊:年中無休 コワーキング:不定期 ※InstagramやXの投稿を確認してください

人と人が混じり合い、地域の入口となるようなゲストハウス兼交流拠点。



大学時代の友達も遊びに来てくれます。



宿泊者との交流も楽しいです。

私とまちの関係性

学生時代は水戸市で過ごしていましたが、水戸宿泊交流場があるエリアのことはよく知りませんでした。しかし、地域のお祭りに参加したり、商店街の方とお話したりすることで、地域を楽しむ機会がとても増えました。まちに関わるきっかけとなる場に参加すると暮らしが楽しくなりますよ。

水戸の暮らしを感じてほしい 水戸宿泊交流場オーナー・建築家 中村 彩乃

交流場の構想は、都内や海外での経験をもとに、今だからわかる、地元である水戸市の魅力を感じられる場づくりをしようと考えたことがきっかけでした。ゼロから始めたものの、想いを身近な人たちに話していくうちに、飛鳥ちゃんをはじめ、一緒に活動する仲間や地元の工務店とつながれて、だんだんと軌道に乗っていききました。交流場の宿泊客が地域を巡ることで活気と循環が生まれるとともに、宿泊客にはこの地域に「また来たい」「場を持ちたい」「暮らしたい」と感じてもらいたいです。

先代からの継承は 技術だけじゃありませんでした

事業継承して おいしさの バトンを繋ぐ。 農業で生きていく。



田村きのご園
二代目
川島 拓

学生時代に、生産者になりたいと思い全国の農家さんを巡っていた時期がありました。その時農業の経営の面白さと難しさを知り、農業の経営を最初に学ぶため、農業経営の支援をしている金融系の会社に就職しました。しかし、やはり生産者になりたい。その想いから、農業に関わる地域おこし協力隊として、地元が一番近い笠間市にJターン。その活動中に知り合ったのが、田村きのご園先代の田村氏でした。本当に美味しいしいたけを求めて、60年以上の年月をかけて福王しいたけを生み出したストーリーや、技術、人柄に感銘を受け、協力隊任期中に弟子入り、2年の修行を経て協力隊卒業と同時に事業継承しました。

きのこが育ちやすい環境が揃っていること、高品質のしいたけを育てるノウハウがあること、そして何より地域から多くの支援があることは、先代からのギフト。しいたけ農家を継ぐことで多くのつながりも一緒に引き継いでいる気がします。これからも美味しいしいたけを作って、このブランドを大事にしたいですね。

大学3年 やまぐち



作物の品種に適した条件や方法について、ご自身で考えながら栽培している点が印象的でした。「農業」といえば、作物づくりのイメージが大きかったのですが、取引先や地域の方との関わり、農業経営など、農家さんが主体とする取り組みはとても多く、他者との信頼関係を築くことの大切さを理解しました。農業に関わる取り組みについて、楽しみを見いだしながら主体的に活動されている様子に、とても感銘を受けました。



KENOH IBARAKI

笠間市

私とまちの関係性

毎朝早くにきのご園にきて作業をしていますが、ここからの眺めが最高ですね。他の農家さんとたわいもない話をしたり、お野菜をお裾分けしてもらったりと、地域の横のつながりの温かさを感じます。

大学1年 MAX

田村きのご園さんの福王しいたけは普通のしいたけの倍ぐらいの大きさと、とても肉厚ジューシーでほったたが落ちそうでした。お話を聞いてとても印象に残ったことは、全般的に農家さんの高齢化が進んでおり、とても有名な美味しい野菜を販売しているところでも廃業する農家さんも増えていることです。そのため若い人が農業に興味を持ってもらえるような活動を大学生のうちから始めてみたいと思いました。



田村きのご園

DATA 茨城県笠間市福原1605 電車: JR水戸線
福原駅より徒歩約30分 車: 駐車場4台あり
営業 9:00~17:00 ⑧ InstagramやHPを確認してください

肉厚でうまみの詰まった「福王しいたけ」の栽培を行うしいたけ農家です。



普通のしいたけと比べてこんなに違うサイズに驚き!



しいたけの軸も旨味たっぷりに感動しました!

自分のペースで 生きる 楽しいから 土を捏ねる



陶芸家
Keicondo

陶芸している
だけじゃ、
もったいない。

父親も陶芸家なので、幼少期から土には触れられる環境でした。ただ、せっかく大学を卒業したので別なこともやってみたいと思い、1年だけ民間企業で営業職を経験しました。その後、笠間陶芸大学校へ入学し陶芸家の道に。海外にも興味があったので、卒業後、青年海外協力隊に参加し、2年間南米ボリビアに渡りました。ボリビアの広大な赤茶色の高山や茶色と黄色が混ざり合った大地にインスピレーションを受け、その世界観をいま笠間焼で表現しています。

最近では、僕の作風が口コミで広がり「こんなもの作れる?」という東京のシェフからの依頼が増えてきて、より「料理が映える器」づくりを意識するようになりました。また、工房の近くに小さな一棟貸しの宿OBRASをつくり、笠間に来た方が、笠間焼がある暮らしを体験できる取組にも挑戦しています。でも、無理せず自分



料理や素材が引き立つようなシンプルなデザインが特徴の笠間焼作家。



陶芸家 Keicondo

DATA 茨城県笠間市手越769 ※工房の一般見学、販売はしていません。仕事場兼住宅なので突然の訪問はご遠慮ください。作品は笠間市内の各所ギャラリーにあります。

笠間市

KENOH IBARAKI

のペースで笠間での悠々自適な暮らしを優先していますね。陶芸だけをしているのではなく、笠間の魅力を伝えるアプローチを常に模索している感じです。

私とまちの関係性

自然がある里山も近くて、陶芸や芸術の文化もある街だと思います。落ち着いて陶芸に集中できる環境ですし、近隣にも出かけやすいので、クリエイターにはとてもいい環境だと思います。宿OBRASで、是非笠間暮らしを体験してみてください。



顔のデザインが入った陶器のカップ。器が違っただけで気分も上がる!



工房で一枚一枚微妙に違うたくさんのお皿から、好みのお皿を選んでみるのがすごく楽しかった。

大学3年 はなえ

ランチタイムで使用した顔のデザインが入った陶器のカップは、ユニークさと手触りが印象的で、持つだけで自然と笑顔になりました。Keicondoさんは陶芸を「好きなこと」として捉え、価格は最終的にお客さんが決めると語り、作品に対する真摯な姿勢が感じられました。

大学3年 もね

笠間焼が有名であることを知っていましたが、全国的に大きく名を馳せているわけではないことが不思議でした。それは笠間に集まる陶芸家の皆さんがそれぞれ好きなように笠間焼を通して表現しているからだ今回の訪問で気付くことができました。そんな笠間で自分の好きなことを追求するKeiさんの生き方からは学ぶことが多く、私も間を持ちながら風のように生きていきたいと思いました。



できること、できないこと、無理をしないで仕事をする。

大学を卒業後、都内で設計やデザインの仕事をしていたのですが、働き方や暮らし方に疑問を持ち、自分は何ができるんだろうと悩み仕事を辞めました。その後、お茶を淹れるのが上手だよねと褒められたことをきっかけに、神奈川県のお茶屋さんで2年ほど働いたんです。その中で、できること、できないこと、無理をしないで仕事をする意識を始め、心地の良い居場所をつくるための、自分が住みたい地域探しが始まりました。そのタイミングで当時、笠間市の地域おこし協力隊の募集を見つけ応募し、活動の中でまちのベンチの物件に出会いました。



まちのベンチ 店主
河又 恵太



まちのベンチ

DATA 茨城県笠間市八雲1丁目1-14 電車:JR水戸線 友部駅より徒歩約5分 車:駐車場4台あり
営業 10:00~16:00 (L.O 15:30) 休 水曜日、日曜日
※臨時休業・臨時営業もあるので、Instagramを確認してください

日本カフェやギャラリー、貸しスペースなど多様な役割を持つ小さな複合施設。



笠間で出会った仲間と距離感を大切に暮らし



KENOH IBARAKI

笠間市

当時ボロボロだった空き家をセルフリノベーションし、今も少しずつ改装を続けています。地元の作家さんやアーティストさんに展示やライブをしてもらったり、時間をかけて一緒に場を作り上げていったことが楽しく、自分に合っているのだと気づきました。また、何かしたい方が新しくチャレンジできる空間にもしたくて、お茶を飲みながら、これからのことを一緒に考えています。過去経験したことを否定せず、できることをつなぎ合わせることで、今の働き方ができました。



私とまちの関係性

北茨城市出身で、一度東京にも住んでから笠間に来ましたが、笠間はとても人が優しく温かいなと思います。陶芸家やクラフト作家とも、この地で知り合いになりました。子供二人と妻がいますが、子育てもしやすく、家族の時間もしっかりと暮らしています。



お茶だけでなく、クラフトコーラのお湯割りもあって、新感覚でした。



店内の展示スペースも手作り感があって、温かい空間だった。作家さんの作品があるのもイイ！

大学2年 おこめ丸

地域おこし協力隊として活動していた時のことや、まちのベンチの物件を自らDIYして活用した時のエピソードなど様々なお話を聞くことができました。手作りのコーラも甘すぎず薄すぎず、丁度良い甘さでおいしく飲むことができ、リラックスした雰囲気時間が過ぎていったため、あっという間に感じました。まちのベンチが地域と密接に関わっている様子がわかり、個人的に友部に行くことも多いため、また訪ねてみようと思いました。



大学3年 はなえ

河又さんの紡ぐ言葉は本当に優しく、悩みを温かく包み込んでくださるその人柄がお店の中に広がっていて、今まで味わったことのない心がほぐれる感触を感じることができた時間でした。カフェという枠組みに当てはめるのは違う、その時々によって異なる表情が見えるこの場所は、誰もが一息ついて次に進む優しい勇気もらえる「まちのベンチ」になっていると感じました。



職なし、貯金0からのスタート ここに来てよかった



アーティスト／
デザイナー
臼田 那智

地域が支えてくれている
その温かさを感じてほしい。

2016年に、那珂湊の芸術祭にアーティストとして参加したのが、那珂湊エリアに関わる最初のきっかけでした。地域から廃材を集めて、屋台山車を模した作品を作ったのですが、どんな材料が出てくるかは地域を回って見ないとわからなかったんです。でもそれがおもしろかったですし、近隣の住民の方がとても応援してくれて温かかったんですね。そこから芸術祭を通じて地域との接点が増え、作品作りをもっとしたいと思い、翌年に東京から移住したんです。



移住した当時は仕事も貯金もない状態で、こんな私でも大丈夫？と思っていましたが、なんとなってます。それも、外から移住してきた私にも優しくしてくれて、いつも気にかけてくださる方々がいるから。おかげでご縁も増えて、いばらき県央地域の仕事だけでなく、県北地域とつながりができ、作品作りやデザインの仕事をするようになりました。つながりと応援がある温かい雰囲気を、是非感じてほしいと思います。

大学2年 のぞみ

芸術を遠い存在だと思っていましたが、臼田さんのお話を聞いたり那珂湊駅周辺を散策して、標識や駅名標など地域に芸術が関わっていて、身近に感じました。駅ではおらが湊鉄道応援団の皆さんが歌唱・演奏していて、駅に素敵な雰囲気が流れていて心が温かくなりました。また、「みなのおへそ」をはじめ地域の皆さんが、那珂湊を盛り上げようと守ろうと強く思っているのが伝わってきて、とても素敵だなと感じました。



ひたちなか市



みなのおへそ

DATA 茨城県ひたちなか市駅通り7-15 電車:ひたちなか海浜鉄道湊線 那珂湊駅より徒歩約2分
車:近隣の公共駐車場もしくはコインパーキングをご利用ください ご利用料金:1時間950円、1日利用7,500円 (※)11:00～17:00 ※人がいない場合がありますのでSNSかMMM公式サイトからご連絡ください

空き家を改装した地域の交流拠点。アートプロジェクト「みなとメディアミュージアム」の活動拠点の側面も。



私とまちの関係性

2017年に東京から移住してきて、いまでは結婚して娘もいます。海も近いし、大きな公園もあって、大型のショッピングモールもあって生活は何も不満はありません(笑)。県央以外の自然も近いので、創作活動にも十分魅力的です。また、製品のほいもや、お魚市場もあるので、食材が豊富で美味しいのもとても嬉しいです。



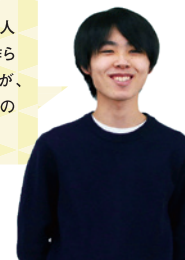
ちょうど、那珂湊線が来て、エモい時間でした。



那珂湊駅の構内の装飾がレトロで雰囲気抜群!

大学1年 けいちゃん

ひたちなか市にきた経緯と決断の仕方が、僕にとってとても衝撃的でした。地域の人に助けられてきたことが伺えるお話で、人と協力していくことでその人の人生が形作られていくことがよくわかりました。アート・芸術など自分にはなじみがない分野ですが、「作り終わった後は達成感がある」と語られていたので、他の物事とモチベーションの持ち方はあまり変わらないのだと学びになりました。



地域を盛り上げたくて 大好きなミニシアターを 作りました

好きだからやれる。
映画の力を
信じている。



あまや座 代表
大内 靖

ミニシアターの運営をはじめたのは、閉店したスーパーの店舗跡を活用できないかという住民の声がきっかけでした。私自身も映像制作に携わる人間なので、茨城でも良質な映画を見る機会を作りたいという熱意と「やれたらすごいよね、俺!」という勢いでクラウドファンディングを始め、2017年10月にあまや座をオープン。1スクリーン31席と小さいですが、大きな劇場と変わらないプロジェクターと音響設備が魅力です。映画が好きというのも単純な理由ですが、自分が生活する場所でまちのために力になりたいと思って映画館を開きました。

私が多様な価値観に触れてほしいという想いで厳選した作品を、月に10本ほど上映しています。地域の方が私が選んだ映画で新しい世界とつながったり、地域に新しい人が訪れるようになったらいいなと思って活動しています。まだまだミニシアターだけでは生計が難しいので、収入の柱を他の仕事で補っていますが、自分の好きを自分の好きなまちで体现できるのは幸せなこと。茨城の良さを伝える役割の一部を担えたら幸いと思って活動を続けています。

大学2年 かのん

「好き」という思いは、強い原動力になるんだと思いました! 他の映画館では上映されない映画、いわゆる「ニッチな情報」を求めている、好きだと思っている人は、案外たくさんいて……そんな人たちに届けたいという熱い想いをすごく感じました。時代の移り変わりと共に変わっていく映画界の事情なんかもお話いただいて、近年の変化をすごくポジティブに考えていて、見習わないといけないなと思いました。



那珂市

私とまちの関係性

映画を撮影するにもロケーションがたくさんあるなと思います。海にも出やすいし、里山のような自然もある。また那珂市もお店が多いので生活は便利です。上菅谷駅周辺での「ガヤガヤカミスガ」にも毎月多くの人が訪れてくれています。

大学2年 のぞみ

映画を見る場所＝大きな映画館、という印象しかなかったので、ミニシアターという存在をはじめて知りました。決して人口の多くない街中にまちづくりの一環としてミニシアターを作ろうと思いついたのもすごいです。上映する映画もこだわっていて、映画を見るだけではなく、価値観を広げられたり、考えを深めたりできるのもいいですね。また、小さい空間だからこそ生まれる雰囲気やつながりに特別感があって素敵だなと感じました。



あまや座

DATA 茨城県那珂市瓜連1243(スーパーあまや駐車場内) 電車:JR水郡線瓜連駅より徒歩約6分
図 9:30~18:30 図 水曜日

上映ラインナップやその雰囲気、映画好きから人気の県内唯一のミニシアター。



ここが事務所!? と最初はびっくりリテンションがありました。



バス内は秘密基地みたいでワクワクでした。



みの〜れから生まれた 交流が、私の暮らしを 豊かにしている



動画クリエイター
立原 陽子

小美玉の「人」と 一緒に暮らしを楽しむ。

私は夫婦で動画クリエイターとして活動しています。若い頃はいろいろな仕事をしてみたい気持ちもあって、医療機器販売、サーキット、ブライダルなど何回も転職。その経験が今とても活かしています。結婚を機に小美玉市に引っ越し、家建てた頃、市内で全国ヨーグルトサミットという大きなイベントがあり、そこで市の職員さんに声をかけてもらったことが地域に関わるきっかけでした。それから輪が広がり、市民団体の代表をしたり、小美玉を伝えるメディアに関わったり、市民マルシェにも出店して自分で育てたトマトを販売したり。

活動のきっかけは「みの〜れ」で知り合った皆さんとの井戸端会議がほとんど。面白いことをしたい!という熱量があって、自分でやろうとする意識も高いんです。だから、どんどん活動が生まれていく。みの〜れには現在14の住民チームがありま



地域住民が主体的に集い、対話の文化を通じた活動が生まれる小美玉市の文化ホール。



四季文化館 みの〜れ

DATA 茨城県小美玉市部室 1069 電車:JR常磐線 羽鳥駅より車で約10分 車:ホール敷地内の無料駐車場が利用可能 図 9:00~22:00(受付21:00まで) 図 月曜日(月祝日は翌日)、年末年始(12/28から翌1/4)

小美玉市

KENOH IBARAKI

すが、中でも演劇ファミリーMyuは100人近くいる大所帯で、特に若いメンバーが活躍しています。また、動画の仕事は多種多様な人に出会うことが多いので、いまでは誰かと誰かを繋ぐ立場にもなっていて、それも楽しいですね。暮らしていて、すぐ話せる距離に仲間がいるのが心地よいと感じています。私にとって、小美玉市は行動範囲の規模感や自然のバランスがちょうどいい街なんです。

自分らしく生きる場所 演劇ファミリーMyu代表 佐々木 泉

演者でありつつも脚本に関われる機会があったり、やりたいことの扉を開いておいてくれるのがMyuの良さだと感じています。演劇をやりたいというよりも、誰かとつながりたくて参加する人のほうが圧倒的に多いですよ。みの〜れは自分らしく生きるための術を学べる場です。



Omitamagazineのクオリティも高かった!



20年も前に建ったとは思えない素敵で綺麗な建物でした!

私とまちの関係性

みの〜れにくるといつも井戸端会議のおしゃべりがはじまります(笑)。そこから、空のえきそ〜ららで新商品がはじまったとか、次のイベントがはじまるなど、意外とSNSより口コミや雑談から新しい情報を知ること多いんですよ。

大学2年 いの

建物に入るとすぐに子ども達の笑い声がして、館いっぱい温かい雰囲気があふれ、みの〜れが人々の居場所になっていることが肌で実感できました。ここでは、地域住民が主体的に地域のために活動しています。そのための、「対話の文化」という土壌が整っているからです。その文化はMyuを通じて子ども達にも受け継がれています。未来ある自治体はかくあるべき、を体現していて、感動しました。

大学4年 まっきー

みの〜れに関わりながら日々の暮らしに楽しみを見出している人がたくさんいるのは、かつて自分がやってみたかったことを自然と思い出させてくれるやさしい雰囲気が広がっているからなのだと感じました。みの〜れのゆるやかな関わりしろのなかには、自分がかつて熱中していたことや好きだったこととどこか重なるものがあり、それを受け入れてくれるあたたかい仲間がいてくれるような気がしました。



アウトドアを楽しみながら仕事ができる。 自分的には最高です。

私は個人で動画クリエイターとして、行政から民間企業、地域プロジェクトに至るまで、幅広い領域のプロモーション動画の制作を行っています。でも実はファーストキャリアはなかなか思い通りの就活ができず、不動産会社での勤務に。しかし、そこで働いてわかったことは、自分はやっぱりデザイン関連の仕事がしたいということや、アウトドアができる環境でストレスなく暮らしたいということ。転職活動をした結果、ご縁があってデザイン会社で働けることに。その時に動画制作に出会い、これもデザインの一つであることに気づき、のめり込んでいきました。



CRAFT REFLECTION
通野 崇



親沢キャンプ場

DATA 茨城県東茨城郡茨城町中石崎2263 車：無料駐車場が約40台 図 通年 図 水曜日(祝日及び祝日の前日を除く)、年末年始(12/28～1/4)
図 チェックイン13:00 / チェックアウト翌日11:00

酒沼が一望でき、自然を満喫できる湖畔キャンプ場。



いまは、奥さんの地元で家を建てて事務所スペースをつくり、茨城町での自然がある環境を楽しみながら動画の仕事をしています。親沢キャンプ場をはじめ、茨城町にあるキャンプ場や景色は、もう自分のフィールドとしてプライベートとの境目なく、よく利用しています。アウトドアが好きすぎて、動画制作以外にも、自分でアパレルブランドを立ち上げたりと、創作活動が自由にできる環境が気に入っていますね。

大学2年 いの



フリーランスといえば、1人孤独に戦っているイメージ。でも通野さんはとっても朗らかな方で、「何よりも関係性が大事」とおっしゃっていたのが印象的でした。また、本当に自分がやりたいことが見つかるまで遠回りしても良いし、できない事になんでもチャレンジしても良い、と言うことを通野さんの人生を通して教えて頂きました。まだまだ迷ってばかりの私ですが、もっと迷っていこうと勇気をもらいました。

茨城町

私とまちの関係性

結婚を機に移住した茨城町では、自身の趣味でもあるキャンプにまつわるイベントを企画するなど、自然や地域とも関わりながら日々暮らしています。

大学3年 まひろ

通野さんも幼少期の頃は「自然を相手に遊んでいた」とおっしゃっており、自然はただ見るだけではなく、その中に入って自然と一緒に遊ぶというスタイルも面白いのだと改めて気付かされました。また、通野さんのお話の中で、いろいろなことがあってもそれは全て自分の力になると聞き、いろいろなことに挑戦してみればもっと面白い自分と出会えるのだらうと思いました。



この日は風もなく、鏡のような景色!思わずバシャリ。

遊びで暮らしを豊かにする



焚火と本 店主
株式会社Coelacanth
代表取締役
佐藤 穂奈美

Uターンしたら楽しい日々です。

大学卒業後、都内や鎌倉のまちづくり会社で働いていましたが、家族との時間を大切にしたいと思い、30歳になる前にUターンを決意。地元大洗で何をしようと考えた時、自分が今後、長く住むからこそ「自分の好き」を活かした事業を立ち上げたい、また、文化で地域を豊かにする一員になりたいと思い、最初に自分が好きな「本」と「焚き火」を軸としたブックカフェの経営を始めました。それと同時に、これまで地域に存在していた課題を「あそびとクリエイティブで乗り越える」というコンセプトを掲げ、街に対して総合的にアプローチをする株式会社Coelacanthを立ち上げました。

弊社の不動産事業の面白い点は、物件を仲介せず、人と人、人と暮らしを仲介している点です。私自身が茨城の各地域に飛び込んで、面白い!と思った人と地域の暮らしを体験できるコンテンツ開発をし、その体験を通じて不動産の紹介をしています。なので、夏は勤務時間中に鮎釣りをしていたり、ツリーハウスで和紅茶づくりなどをしていますが、これもきちんとお仕事で、地域に来てもらう人を増やすには、まずは自分が一番地域を楽しまない!と思って、全力で地域で遊んでいます。遊びながら仕事の切り口を見つけ、遊びが高じて事業化している感じですね。また毎週、海に入る時間を確保したり、愛犬と戯れたり、何気ない地元時間ですが、大洗にいるからこそできる私なりのリズムの作り方であり発想の原点となっています。

大学3年 まひろ

大洗町は、「つながり」を強く感じた訪問先でした。それはひと同士のつながりもそうだし、モノやコトのつながりも含まれます。一見まったく関係のないように見えても、どこかでそれらはつながっているということを、佐藤さんのお話を受けて感じました。また、佐藤さんは「遊びが高じて事業化した」とおっしゃっており、初めから仕事として向き合っていなかったからこそその発見や感じるものがあつたのだらうなと思いました。



私とまちの関係性

休みの日は本を読んだり、愛犬のうみちゃんと遊んだりして過ごしています。最近は釣りに熱中しています(笑)。夏は毎週ボディボードするのが習慣になっていますね。大洗に遊びに来てくれた友達は必ずと言っていいほど連れていくんですよ!海辺の暮らしを満喫しています。



コーヒーを買ったら、本を読める。ずっと居たくなるスペースでした。 みんなと歩くといつも行かない商店街もとても面白かったな。



BOOK&GEAR 焚火と本

DATA 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町1060 電車: 鹿島臨海鉄道大洗鹿島線 大洗駅より徒歩約10分
車: 永町商店街駐車場から徒歩3分 図 不定期
Instagramの投稿を確認してください

商店街の呉服店を改修して
できた、本を通して人と出会
えるブックカフェ兼書店。



大学4年 まっきー

佐藤さんのお話を聞いて、自分がおもしろいと思う事を全力でおもしろがっていた先に自分のキャリアが生まれてくるのかなと思いました。就職活動や地域活動をする際に、どうしても自分が果たすべき社会的な意義や役割を先にイメージしてしまいがちですが、それは後付けでも全然よくて、まずは自分がちょっとでもおもしろいと思える事と向き合い、それを信じて行動してみることが大切なのだと思います。



受け入れてもらう側から 受け入れる側に

地域おこし協力隊になって、 地域で暮らす 楽しさを知りました。

私は旅が大好きで、安旅ですが、自分を見つめ直すために20代後半のタイミングで約50カ国を巡る世界一周旅行をしました。その中で、ゲストハウスやホテルでの一期一会の交流が印象深く、いつか宿をやってみたいと思ったんです。帰国後は、水戸で旅行会社、デザイン会社勤務を経た後、スポーツを通じたコミュニティづくりに興味を持ち、横浜でフットサル関係の仕事をしていました。その時に、水戸ホーリーホックのクラブハウスのある城里町から地域おこし協力隊のお話を頂き、地域で活動することとなりました。

協力隊として城里町で活動する中で、地域に知り合いが増え、お茶農家さんと仲良くなって栽培にチャレンジしたり、大洗町の海でサーフィンしたりと、自分なりの城里暮らしが楽しくなってきました。そして、協力隊を卒業する時、城里町に拠点をしっかり構えようと決断し、協力隊の住居として紹介された古民家を購入。DIYでリノベーションしてゲストハウス「サカモトさんち」をオープンさせました。

知人はもちろん、海外から泊まりに来てくださる方もいて、今度は私が旅人を受け入れる側になったと実感。暮らしながら城里町の良さを提案している感じがして面白いですね。



ゲストハウス
「サカモトさんち」オーナー
坂本 裕二



城里町

私とまちの関係性

水戸からも近いですし、庭いじりや車や家具にお金をかけられるので、ゆったりとした時間を楽しめるのが自分の的に最高だと思っています。四季によってや朝と夜で流れる風の雰囲気が違うのもまたいいですね。

高専5年 さとほる

坂本さんのキャリアは突出して多種多様だなと思いました。だからこそ、豊かなコミュニケーション力や家をリノベーションする力が身についたのだらうなと思いました。また地域に対しても「地域のコミュニティも大切だけど、結局地域を活性化するのは本質的に質が良くて人気なもの」という考え方は、とても本質的で価値観を広げるいいきっかけになりました。21歳だからこそできることを考えて日々生活しようと思います。

25



大学1年 ゆうご

見た目は古民家、でも中は綺麗な内装、オシャレな作り、落ち着いた色合い、更には自然もあり素晴らしい空間で驚きました。また、その綺麗な空間を自身の手でDIYしたとあってさらに驚きが止まりませんでした。1階をゲストハウス、2階で家族と暮らす中で、家族とゲストの方とも交流できる所が魅力的だと思いました。海外の方もゲストとして来るとお話を聞き、とても地域に貢献していると感じました。

26



ゲストハウス サカモトさんち

DATA 個人宅のため、宿泊者のみに住所を公開しています。※詳細はQRコード先のサイトからご確認ください

世界50カ国を経験した元
バックパッカーの坂本さんが
DIYでつくったゲストハウス。



飼っているカメが可愛くて、心にゆとりが生まれそう!



近隣の物産センター「山桜」で食べたそばが本当に美味しくて、しばらく無言だった時間も思ひ出。

地域で感じる 実家のような温かい 時間



地域おこし協力隊
関川 恵実

昔ながらの 対面コミュニケーション が面白い

私はもともと新潟出身で、最初のキャリアが東京での公務員だったんです。ただ、一生懸命になりすぎて体調を崩し、改めてどんな人生を送りたいかを考え直した時、学生の頃から挑戦したかった「地域に根づくまちづくりの活動をしたい」と思いました。それからライティングなどを学び直し、地域おこし協力隊の募集を見て城里町にきました。

私の協力隊としての主な活動は、地域イベントの開催や、城里町内の取組を取材して発信することです。具体的には、月に一度、築320年以上の古民家で地域の方々と共に「燻蒸会」を開いたり、年に2回行われる、古内地区を巡りながらお茶を楽しむイベント「庭先カフェ」に携わったりしています。活動を通して特に重要だと感じているのは、対面でのコミュニケーション。その素晴らしいお手本となるのが、庭先カフェ



城里町名産の古内茶の
栽培と対面販売を行う
お茶園。



高安園

DATA 東茨城郡城里町下古内314-1 車:無料
駐車場が6台ほど ① AM8:00~PM5:00 (4月
~10月) / AM8:00~PM4:30 (11月~3月)
② 水曜日 ※5月~7月は休まず営業

城里町

KENOH IBARAKI

でもお世話になっている「高安園」さんです。お店で提供されるお茶を楽しみながら、温かな空間で過ごすひとときは、町内外の人々の憩いの場となっています。私も実家に帰ったような気分で、つい長居してしまいます(笑)。
高安園さんのように、対面でのコミュニケーションを大切に、人とのつながりを育んでいる姿を見て、地域活動で信頼関係を築くことの大切さを改めて実感しています。



古内茶との接点をつくる 高安園 代表取締役 高安 達夫

お茶農家として城里町の特産品古内茶を自園で栽培し、製造しています。来客した人たちには、妻が手作りのお茶請けとお茶をふるまって、対面販売を心掛けています。お客さんとコミュニケーションをとって、少しでも城里町の良さを直接伝えられたらと考えています。

私とまちの関係性

燻蒸会の舞台となる「島家住宅」は、国登録有形文化財であり、住宅としては茨城県内で最も古い建造物です。江戸時代から続く茅葺き屋根の古民家で、昔ながらの暮らしを思い描きながら城里の時間を感じています。



茶畑をこんなに近くで見たのは初めて。



奥さんのコミュニケーションが、優しく温かったです！



大学3年 もね

お茶の製造工程を見学しました。高安園さんのように店頭でお茶をふるまう販売スタイルは普段からもお茶に触れるきっかけになると感じました。ものづくりという工業製品などがイメージとして大きかったですが、農業もひとつのものづくりであるとお聞きして、高安さんのお茶への向き合い方が表れていて素敵だと感じました。

大学2年 おこめ丸

お茶畑の様子はもちろん、昔から大切に使用されているお茶作りの機械の見学をすることができ、高安園の方々のお茶づくりに対する熱い想いに触れることが出来ました。また、近隣の他のお店にはない対面販売の方法も驚きでした。お客様が実際にお茶を味わい、高安園の方々と深いコミュニケーションを取ることが出来る環境があることは高安園で生産されているお茶を知る上で大切なことだと感じました。



東海村といえば! という場をつくりたかった。

私は地元で写真館を営むカメラマンで、相棒の葛西は音楽教室の講師が本業です。そんな二人がなぜ東海村でマルシェを立ち上げたかという、他の地域に住む友人が素敵なイベントを主催していて、常に私たちはお客さんだったのが悔しかったからです。東海村にも足を運んでもらうコンテンツを自分達でつくってやろう! という意気込みで、本業の合間を縫って二人で小さくスタートさせたのが始まりでした。



一般社団法人
ラフェット・デラブル
切敷 明彦



ラフェット・デラブル

「楓のお祭り」という意味があり、秋が一番の大きなイベントとなります。



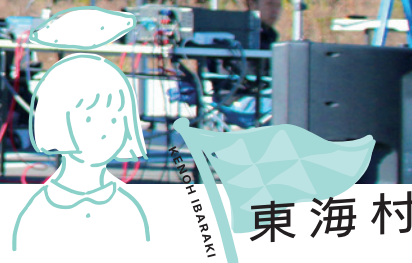
コミュニティスペース Lien

DATA 茨城県那珂郡東海村舟石川駅西1-15-15
電車: JR常磐線 東海駅より徒歩約7分 図 要予約
※「ラフェット・デラブル」の活動はInstagram
でお知らせしています

イベントやワークショップが
できるレンタルスペース。ラ
フェット・デラブルが運営。



地元で想いを形に それが何より楽しい



私とまちの関係性

近隣エリアで開催されているイベントに足を運んだり、子どもと遊んだりするのを楽しんでいます。東海村は、コンパクトシティのようにギュッとして移動がしやすいです。街並みも綺麗で過ごしやすいですよ。

ラフェット・デラブルは、東海村を中心に子育て中のパパ・ママをはじめ、大人がゆっくり楽しめることをコンセプトとして企画・運営をしています。私たちも子どもがいて、自分達がまずは楽しめる場が大事だなと考えたんです。世界観や装飾、出店者にもこだわって、結果的に寝る暇がないくらい大変になりました(笑)。でも、地元の東海村に笑顔がたくさん生まれて、友人にも家族と一緒に足を運んでももらえるようになりました。2021年には法人化して、常設となるコミュニティスペース「Lien(リアン)」をつくり、ワークショップやイベントなど様々な用途で地域の皆さんにご利用いただいています。地元である東海村で、少しずつ自分達の想いを形にすることが何より楽しいですよ。

大学1年 けいちゃん



お二人とも本業を持ちながらもこれだけの大きなイベントを開催していることに驚きました。当時の苦労話を聞いて、長い道のりを経て今の規模になったことがよく理解できました。また、マルシェを始めた理由が「羨ましかった」だったのがとても印象的でした。お二人の話の内容から、人に助けられながらここまで来たことを実感していて、決して自分達だけの力ではないと考えているのだなと感じました。

大学2年 かのん

近くにこんなに活発で素敵な人たちがいるなんて!と驚きました。よく遊びに行くイベントだったので、実行に至った経緯のお話がとても印象的でした。人にはそれぞれ得意なことがあると思いますが、想いを形にし、たくさんの人に届けるというのはかなりエネルギーを使うと思います。他の街を見て、自分の街を盛り上げたい!という愛を持って、自分たちで動き活動している姿を見てすごく刺激をもらいました!

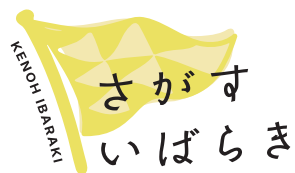


みんなで食べたマルシェ限定のカレー。美味しかった!



新しい公園に若い松の木。色々な物語がここから始まりそう。





参加大学生アンケート

プレイヤーを取材した学生のリアルな声をまとめました。訪れたからわかること、再認識したことなど、いばらき県央地域での暮らしについて参加後に振り返って考えてくれました。

※アンケートの回答総数：16名



自分のこれからの働き方・暮らし方を考える上で、参考になったことはありましたか？

A 信頼関係を築く大切さ、それが仕事につながるという意識

A 自分の興味にもとづいて選択をしているという印象があり、自己理解はとても大切であると感ずることができた

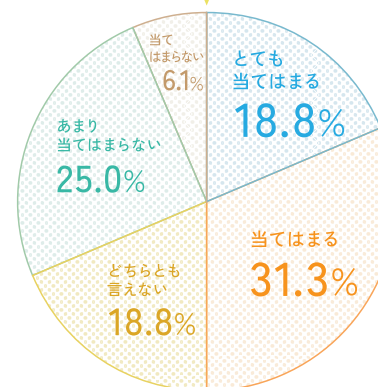
A 東京や、別のところでの社会経験を活かしているというお話を聞き、取り入れたいと感じた

A やった方がもっと楽しい生活になる。飛び込んでみることも大切だということが学びになりました

A はじめからうまくやろう、絶対に成功させようと思うのも大切だけど、それ以上に成功までの過程を楽しめる人になろうと思った

A 自分の生き方で良いんだなと思った

このイベントに参加する前は、県央で働き、暮らしたいと考えていましたか？



とても当てはまる

A 県央地域で生まれ育っているため

当てはまる

A 何となく地元で働きたいとぼんやり考えていた

どちらとも言えない

A 県央で！という意識はあまりなかった

あまり当てはまらない

A 将来したい仕事ができる環境が東京ほどない

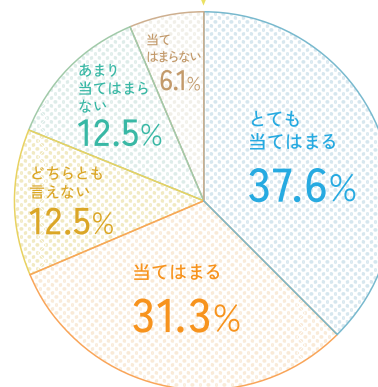
あまり当てはまらない

A 田舎は遅れていると、考えていたため

当てはまらない

A 働く場所について、特にこだわりがなかった

このイベントに参加した後は、県央で働き、暮らしたいと考えていますか？



とても当てはまる

A 茨城を好きになれたため！

とても当てはまる

A 自分のルーツである県央地域で働きたいと強く思い、具体的に考えるきっかけになった

当てはまる

A 県央地域は交通も便利で、仕事と遊びのバランスが取れそうだから

当てはまる

A 田舎でしかできないことも沢山あり、必要とされそうのため

どちらとも言えない

A まだ明確に県央に留まりたい、とまでは思っていない

当てはまらない

A いつかは戻って来たいが、東京でいろんな経験を積んでからでも良いと言う意味で

参加者の声

訪れたからわかること、再認識したこと。現地を訪れ、いばらき県央地域との向き合い方を考えてくれた学生のリアルな声をまとめました。



かのん

はじめて那珂湊駅の近くをぐるっと一周したのですが、一周ただけでその街が大好きになりました。同じ県に住んでいるのに全く知らなかった街の人たちと出会い、「地域と生きる」という言葉の意味を実感しました。

【印象に残った人】ひたちなか市 臼田さん

初めてラフェット・デラブルさんのマルシェに参加しました。東海村は家族連れが多いイメージなので、このようなパパとママがゆっくりできるイベントがあるのはとてもいいなと思いました。穏やかで雰囲気が素敵でした。

【印象に残った人】東海村 切敷さん／葛西さん



のぞみ



けいちゃん

映画愛に加えて「知名度はなくても、議論し合えるような作品を広めたい」という思いが活動の原点だと知りました。大内さんの「やれたらすごいよね、俺!」のチャレンジ精神を、自分も人生を決断する際の参考にしたいです。

【印象に残った人】那珂市 大内さん

「第三者継承では農家さんとの信頼関係が大事なので、言われたことをやる以上に自分の価値を示し頼られる存在になると良い」と聞き、自分も普段からの行動を見直して、人に信頼されるような行動を取りたいと思いました。

【印象に残った人】笠間市 川島さん



さとほる



「全力で遊ぶ」と佐藤さんは言いました。これは簡単そうですが、遊ぶために知識や観察力を持って、心で物事を受け止め、面白がり行動に移す。その行動力の根底には愛する人と街があるのだと思いました。

【印象に残った人】大洗町 佐藤さん



いの

進路を考えるのに常にbestな選択を追い求めるのではなく、betterで良いと知れたのが印象的でした。会社選びもはじめから完璧な選択はなく、その時は暫定の選択でも、後々自分の成長に大きくなると学びました。

【印象に残った人】茨城町 通野さん



まっきー

自分の得意なことを活かせる場、好きなことややりたいことに挑戦できる場があることの素晴らしさを感じました。個人個人に光があたり、必要とされることで、その個人はもっと輝いていけるということが強く印象に残っています。

【印象に残った人】小美玉市 立原さん／佐々木さん



まひろ

「ものづくりが出来たときの楽しみ、嬉しさ、そして毎年続けないと見えない変化があるから続けられる」というお茶作りへの真摯な姿勢、そして奥様の温かいおもてなしと共にいただく古内茶の深い甘みと香りに感動しました。

【印象に残った人】城里町 関川さん／高安さん



はなえ

いばらき県央で 楽しむ50の 暮らし方 45のヒント+5

あなたはどう暮らす？
行動の基準の参考に。

いばらき県央地域にいるのに、
行ったことがない場所のほうが多い……
という人もいるのでは？
せっかく住んでいるのなら、
今しかできないことをしてみませんか？

いばらき県央地域をより知るために
自分で地域を巡ってみる。
友達と一緒に巡って、
思い出の地にしてみるのもいいかもしれません。
買い物以外の遊び方を知ること
地元の人よりいばらき県央に詳しくなれるかも。

百聞は一見にしかず。
地域を巡って、自分の目で直接確かめながら
これからの生き方を探っていきませんか？



水戸市

02
イベント週末に
様々なイベントを楽しむ04
文化MitoriOで芸術・音楽に
触れ感性を刺激する01
自然千波湖を散歩し
気持ちを整える03
歴史弘道館・水戸城跡で
歴史に想いを馳せる05
スポーツ熱いプロスポーツを
観戦する

笠間市

07
暮らしetowaとクラインガルテン
を訪れる09
食笠間市内のお店で
モンブランを食べる06
文化笠間日動美術館周辺
を散策する08
産業

陶芸体験をしてみる

10
観光道の駅かさまで
イベントに参加する

うたなみ市

12
産業阿字ヶ浦で
ほしいも作り体験をする14
食サザコーヒーの本店で
お茶をする11
食湊線に乗って、那珂湊駅
周辺を食べ歩きしてみる13
暮らし晴れた日に、
ひたち海浜公園で
ピクニックをする15
暮らし波の音をBGMに、
のんびり読書してみる



那珂市

- 17 歴史 那珂市の神社を5社巡り、願いを唱える
- 19 産業 水郡線に乗って「ぐるぐる」でパンを買い、上菅谷を散策する

- 16 産業 「あまや座」で普段選ばない映画をみる
- 18 観光 静ヒルズキャンプ場でキャンプをする
- 20 観光 なかLuckyFM公園でひまわりの写真をSNSに載せる



大洗町

- 32 歴史 平安時代に創建された大洗磯前神社を訪れる
- 34 イベント 「焚火と本」が主催する読書や自然体験イベントに参加する

- 31 体験 SUP・釣り・サーフィンなど水上アクティビティを体験する
- 33 自然 大洗の海で日の出をみる
- 35 観光 観光マップを使って自転車(レンタサイクル)で町を周遊する



小美玉市

- 22 食 空のえき「そ・ら・ら」で小美玉市の新鮮な野菜を買う
- 24 産業 茨城空港を使って旅をする

- 21 食 「オミタマヨーグルト」を食べる
- 23 自然 霞ヶ浦から筑波山を望む
- 25 イベント 「演劇ファミリー Myu」の公演を観に行く



城里町

- 37 食 産直市場「山桜」で城里産きのこセットを買う
- 39 自然 ふれあいの里でキャンプをし、天文台で星を観察する

- 36 自然 鶏足山ハイキングの後、ホロルの湯で疲れを癒す
- 38 暮らし 「サカモトさんち」に滞在して城里の暮らしを体感する
- 40 スポーツ 「アツマーレ」に行き、芝生でスポーツをする



茨城町

- 27 イベント 大戸の桜の景色を見る
- 29 文化 「いば3」の冊子を手に入れる

- 26 歴史 「ポケットファームどきどき」で地域の製品の買い物を楽しむ
- 28 産業 涸沼・水鳥湿地センターで生き物の展示を楽しむ
- 30 イベント 涸沼でのんびりキャンプ・BBQをする



東海村

- 42 イベント 「ラフェットデラール」にいき、クラフト作家さんに出会う
- 44 文化 いもぞーをみつけ写真に収める

- 41 歴史 歴史と未来の交流館の展示を堪能する
- 43 産業 東海村4大祭を制覇する
- 45 暮らし おいもの公園で遊ぶ

いばらき県央で 楽しく暮らす あなたの5のリスト

せっかくならば
今いる場所で実行できるリストをつくろう！
いばらき県央地域で学生のうちに
たのしいことにチャレンジしてみませんか？

＼ リストにするためのヒント ＼

- 1 茨城だからできることで考えてみよう
- 2 自分の好きを満足させるには？ の視点で考えよう！
- 3 働くにつながる？ 暮らしにつながる？
- 4 一人でやってもいいし、誰かと一緒にやってもいいよね！
- 5 お金をかけないとできないこと？ お金がなくてもできること？
- 6 1年でやるのか、3年かけてやるのか？
- 7 実現可能か、もう一度検討してみよう！

1



2



3



4



5





編集後記 —

この冊子を手にとってみて、いばらき県央地域での暮らしについて、何かヒントは得られたでしょうか？

自分の世界観を大切に、どこで何をして生きるのか。その答えはあなたの中にしかありません。

今回協力を頂いた、いばらき県央地域で活躍するローカルプレイヤーも、葛藤し、挑戦し、いまの生き方を選んでいきます。彼らも、様々な話を聞き、様々な経験をして成長してきました。だからこそ、あなたにも、これからの一つ一つの出会いを大事にしてほしいと思います。

いばらき県央地域に住む大学生、いばらき県央地域出身けど域外にいる大学生たちが、いばらき県央地域でのライフデザインを思い描く。

この冊子が、そのきっかけとなれば嬉しいです。

お役立ちサイト

いばらき県央地域移住情報ポータルサイト

#いばらき
どまんなかライフ



いばらき県央地域移住パンフレット

いばらきの真ん中で
ばら色Life



移住定住特設サイト
水戸暮らし



移住定住特設サイト
sumusumu
笠間



移住定住特設サイト
Love&Peace
ひたちなかLife



移住定住特設サイト
いい那珂暮らし



移住定住特設サイト
おみたま暮らし



移住定住特設サイト
ほどよい田舎
いばらきまち



大洗町
二地域居住
DooR to Qarai



移住定住特設サイト
しろさとくらし



移住定住特設サイト
東海Story





いばらき県央地域移住・定住促進協議会による 大学生がいばらき県央地域での 暮らし方・働き方を考えるプログラム

今のいばらき県央地域ってどうなんだろう？
茨城で自分のやりたい職業に就けるかな？
仕事以外に好きなことってできるのかな？
自分のチャレンジを応援してくれる人っているのかな？

いま、茨城の企業で働いていたり、リモートワークをしていたり、
地域で面白いことに取り組んでいたたり。

いばらき県央地域で働き、暮らす先輩たちと関わりながら
茨城での暮らし、働き方、そして自分のしたいことに向き合うプログラム。

PROGRAM

現地に行く・取材をする

2024.12.7 土
東海村 [マルシェ] ひたちなか市 [ART×地域] 那珂市 [映画]
まちに賑わいをつくる
ラフェット・デラール みなとのおへそ ミニシアターあまや座

2024.12.15 日
笠間市 [農家] 城里町 [ゲストハウス]
想いを継いで仲間をつくる
田村きのこ園 サカモトさんち

2025.1.19 日
小美玉市 [文化ホール] 茨城町 [アウトドア] 大洗町 [リノベーション]
自分の暮らしに楽しみをつくる
四季文化館みののれ CRAFT REFLECTION 焚火と本

2025.1.25 土
城里町 [お茶園] 笠間市 [陶芸] 笠間市 [カフェ]
食を通して笑顔をつくる
高安園 keicondo まちのベンチ

いばらき県央地域で活動するプレイヤーの活動地に足を運び、活動内容や取り組む想いをはじめとしたライフデザインの取材を行うイベント。計4回開催。

先輩の話を聞く

2024.12.28 土
【水戸市】川島 飛鳥さん
【ひたちなか市】石川 晴香さん
Uターンしてフルリモートで働く
Uターン

2025.1.4 土
【小美玉市】門倉 菜さん
【東海村】正田 菜菜美さん
地元で成長するヒント
地元転職
Uターン

2025.2.9 日
【那珂市】小松崎 翔太さん
【大洗町】萬里小路 忠昭さん
会社じゃない働き方を選んだ理由
起業
二拠点
Uターン

2025.3.1 日
【茨城町】富田 春花さん
【ひたちなか市】戸板 咲紀さん
働くときと暮らすを考える
Uターン

多様な分野で様々な働き方をしている社会人の先輩に、いばらき県央地域での働き方や暮らしのリアルな体験談を語っていただくとともに、ゲストと参加者の交流の中で、参加者の気持や考え方の言語化を行うイベント。計4回開催。

